

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17H06114	研究期間	平成29(2017)年度 ～令和2(2020)年度
研究課題名	多用途型日本手話言語データベース構築に関する研究	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	長嶋 祐二 (工学院大学・情報学部(情報工 学部)・教授)

【令和元(2019)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)		
<p>本研究は、音声言語と比較して言語学的にも工学的にも遅れている日本手話研究を発展させるために、手話の単語、文章及び対話の各レベルから、言語学的な解析や手話工学分野で利用可能な多用途型日本手話データベースの構築とその方法論の検討を目的としている。</p> <p>データベース構築は順調に進んでおり、データベース公開に向けた準備も進められている。研究成果は内外に向けて多くの論文が発表されている。研究組織及び研究費の使用も効果的であり、これまでの進捗状況から、研究期間内にデータベースを構築するとして当初目的の達成が期待できる。</p>		

【令和3(2021)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	多用途型日本手話言語データベースの構築とその方法論の検討という目的に対し、言語資料の収集、異なる形式のデータを同期する撮影方式、データへのアノテーション支援システムの構築等の方法論が開発され、3次元動作データ、映像データ、深度データ、赤外線画像から構成される手話の単語及び対話データベースが構築された。研究成果は国内外の関係学会等で論文、口頭発表で発表されており、データベース公開についても、計画的に進められている。本データベース公開に対する関係者の期待も大きく、高い学術的、社会的貢献が望めるものとする。